

(個人)

□基本は「伏せる、逃げる、隠れる」。

□銃声が聞こえたら、爆発があったら、まず「伏せる」。

□伏せたら、周囲をみて、「逃げる」か「隠れる」を瞬時に決めて実行する。

□「逃げる」場合は、あらゆるものを捨てて「逃げる」。

□「隠れる」場合の基本の一つは、部屋やオフィスの窓とドアを閉め、電気や携帯電話の着信音等を消して机、ベッドなどの下に「隠れる」。

□シェルター等がある場合は、そこに避難する。

□武器・凶器を所持した襲撃者と対面したら両手を上げ、手の平を相手に見せて抵抗の意思がないことを示し、指示されるまでは動かない。

(現地(襲撃現場を除く))

□緊急連絡先リストに従い、本社と共に在外公館領事・警備班に第一報したか(詳細は不要、事件発生のみで十分)。

□第一報後、できるだけ多くの情報(発生時間、場所、事件の概要、現場にいる職員の詳細(名前等)、被害状況等)を現場から入手し、本社に報告したか。

□本社との連絡窓口を一本化したか。

(本社)

□外務省領事局邦人テロ対策室に第一報したか(詳細は不要、事件発生のみで十分)。

□第一報後、現地から入手した情報を外務省領事局邦人テロ対策室と随時共有したか。

□外務省領事局邦人テロ対策室との連絡窓口を一本化したか。

□家族対応の担当者を指名(1家族につき2~3名が対応)し、家族に第一報を入れたか。

(本社・現地共通)

□緊急事態対応時の指揮系統及び責任分担に沿った体制が構築されたか。